



## イベント情報

### ● 安曇野さんぽ【2016】

- 堰と屋敷林を訪ねて 豊科飯田
  - 日時 11月12日(土) 9:00~11:30(受付 8:45~9:00)
  - 集合 信濃教育会生涯学習センター
- 伝説と歴史ロマンの郷 明科東川手
  - 日時 11月20日(日) 9:00~11:30(受付 8:45~9:00)
  - 集合 龍門淵公園
- 定員 各コース15名(申込先着順)
- 参加費 1名1,000円(中学生以下無料)
- 主催 NPO法人ふるさとづくり応援団 共催 屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
- 申込み 豊科飯田:11月9日まで、明科東川手:11月16日まで  
公式サイトの申し込みフォーム、または事務局へFAX、郵送
- 事務局 NPO法人ふるさとづくり応援団  
〒399-8304 安曇野市穂高柏原1132-2 (有)ライフポート安曇野内  
TEL 81-1325(平日9:00~17:00) FAX 81-1280  
URL <http://azumino-furusato.com>

### ● 第5回くるりん講座

- 日時 11月19日(土) 13:30~15:00
- 場所 市民活動サポートセンター「くるりん広場」
- 内容 活動資金や人材を応援してもらおう  
市民活動団体を寄付や新しいスタイルの社会貢献活動「プロボノ」で応援している  
基金の仕組みや支援の仕方、活用の仕方について
- 講師 長野県みらい基金 理事長 高橋潤さん
- 事例報告 NPO法人子育て支援ばおばお 小口茂子さん
- 参加費 無料
- 主催 安曇野市
- 問い合わせ 安曇野市市民活動サポートセンター TEL&FAX 82-1922

## くるりん広場市民活動相談を始めます

市民活動サポートセンターでは市民活動団体の皆様の困りごとの相談窓口(市民活動コーディネーターが対応)をセンター内に設け、ご相談をお受けします。

### 実施方法

- ◆ 実施日 予約制です。休館日を除く毎月5の付く日 午前9時~午後5時  
(原則毎月5の付く日ですが、ご都合に合わせて何時でもご相談をお受けします)
- ◆ 対象 市内で活動している市民活動団体(地縁組織、NPO、ボランティア他)  
これから市民活動を始めたい方
- ◆ 相談時間の目安 1相談あたり60分以内
- ◆ 相談内容 市民活動全般(資金調達や助成金、チラシポスターの作成他)
- ◆ 11月の予定 11月5日(土)、11月15日(火)、11月25日(金)

## 安曇野市市民活動サポートセンター

開館時間 午前9時~午後5時  
休館日 毎週日曜日  
年末年始 12月29日~1月3日  
住所 〒399-8303 安曇野市穂高 6658 番地  
電話/FAX 0263-82-1922  
E-mail [azumino-sk@bz03.plala.or.jp](mailto:azumino-sk@bz03.plala.or.jp)  
URL <http://azumino-sk.net/>



# くるりん通信

10月号

No.010  
2016.10.14

〒399-8303 安曇野市穂高 6658 番地 市民活動サポートセンター 安曇野市役所市民生活部地域づくり課 発行

## 活動資金にお困りではありませんか?

市民活動を継続するためには、様々な取り組みが必要ですが、活動資金の調達も大切な要素です。サポートセンターには活動を支援する助成金・寄付金の応募要領や活用実績の事例などが届いています。

活動団体の皆様が実施中、あるいは計画している事業に対して資金的な支援を得たいとお考えの際はサポートセンターで資料を確認してください。

### 助成金

#### ◆ 未来につなぐふるさと基金 締切:11月2日(水)

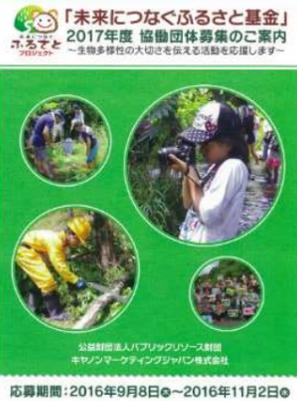
~生物多様性の大切さを伝える活動を応援します~

【公益財団法人パブリックリソース財団、キャンソマーケティングジャパン株式会社】

助成金額:1団体あたり50万円(原則2年間)

助成対象:NPO法人、一般法人、公益法人、任意団体などの市民活動団体

対象となる活動:(例)米や野菜の生育環境の学習、(例)生き物観察マップづくり、生き物フォトコンテストや写真展の開催  
(例)里山の保全や干潟の清掃



### 寄付金助成

#### 集めた寄付金で事業を助成

#### ◆ 2017年度年賀寄附金助成事業募集 締切:11月11日(金)

【日本郵便株式会社】

助成金額:上限は、1件当たり500万円、

活動・チャレンジプログラムについてのみ50万円

助成対象:社会福祉法人、更生保護法人、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人、営利を目的としない法人

対象となる活動:(例)社会福祉の増進、(例)青少年の健全育成のための社会教育、(例)非常災害時の救助・災害予防、(例)地球環境の保全、



#### ◆ 大阪コミュニティ財団 2017年助成事業募集 締切:11月30日(水)

【公益財団法人 大阪コミュニティ財団】

助成金額:基金の内容により異なります

助成対象:1年以上の活動実績を有する非営利団体(法人格の有無は不問)

対象となる活動:●一般基金による助成

「青少年の健全育成を図る活動」、「多文化との共生を図る活動」、「地域社会の活性化を図る活動」

●その他の基金による分野別の助成:11分野

- 1.医学医療の研究、難病対策・医療患者支援、2.青少年の健全育成、3.社会教育・学校教育の充実、4.芸術・文化の発展・向上、5.開発途上国への支援、6.環境の保護・保全、7.地域社会の活性化、8.災害復興活動支援、9.動物の保護、訓練、支援活動、10.健康増進、健全育成の支援、11.社会福祉の増進

# レポート

## ■ 緑のカーテン広げようコンサート

9/17 ■ 主催 NPO法人 あづみ野風土舎 ■ 場所 碌山公園 研成ホール

秋の夜長、弦楽四重奏を楽しもうと約 140 名の皆さんが会場を訪れました。風土舎代表の磯野康子さんは「一年おきに開催しているこのコンサートも 5 回目を迎え、緑のカーテンも年々広がり活動の成果を感じている」と挨拶され、工夫して夜に咲かせたという、オーシャンブルーが会場を彩っていました。

第一部のクラシックステージでは、「音喜楽（おきらく）アンサンブル」が、なじみ深い名曲を中心に演奏。来場者は美しい音色に熱心に耳を傾けていました。その後、ゲストの荻野香代さんが市川美穂さんの伴奏で国内外の曲をソフトなソプラノで熱唱し、優しい空気が流れました。休憩時間は屋外に出て、コーヒー、紅茶などのティータイム。秋の空気に触れながら、リフレッシュしていました。

第二部お楽しみステージでは音喜楽 boy's の嘉納雅彦さん（チェロ）、近藤聡さん（ヴァイオリン）が、息のあったトーク・演奏・口笛などの見事なパフォーマンスで、「音を楽しむ」というコンセプトを十分に伝えてくれました。そして全員参加の「紅葉」の輪唱も圧巻でした。その後、四重奏による「ファランドール:アルルの女より」や日本の曲などをたっぷり楽しみ、終演となりました。



「音楽っていいなー」と皆が思い、帰路につかれたのではないのでしょうか。

（初谷大子）

## ■ 第3回不用食器リサイクル

9/25・26～27（頒布会のみ） ■ 主催 安曇野市不用食器リサイクル事業実行委員会  
■ 場所 穂高プール駐車場

今回で 3 回目となる不用食器リサイクル。およそ 500 世帯分約 4 トンの不用食器が回収されて分別され、その内 3 トン分が美濃に送られて美濃焼として再生されます。残りは 25 日～27 日の「もったいない市」で無償配布されました。中には持参した不用食器よりも持ち帰った食器の方が多く人もいて好評でした。「10 月 8 日・9 日の「安曇野環境フェア」でも配布され、多くの方が利用していました。

不用食器回収は、リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）の 3R 運動として、松本地方では 10 年前から、当時の波田町消費者の会が始めた活動で、長野県は食器回収で日本一と言われるまでに普及しています。



実行委員長の桜井洋子さんは「当初 5 人で始めた活動が、3 年目にして実行委員も含めて 55 名のボランティアが参加してくれるようになった。安曇野の特徴は女性が多く、しかも若い方が積極的に参加してくれている。今年は中学生が 4 人も手伝ってくれた。」と語り、「安曇野では県内で 14 番目に始めたが、安曇野スタイルとでもいうような形が定着しつつある」として、この活動を「まちづくりの推進」ということで継続していくことへの期待と自信を見せていました。

（川崎克之）

## ■ 第6回安曇野の祭囃子演奏会

10/2 ■ 主催 国営アルプスあづみの公園  
■ 協力 安曇野の自然と文化を考える会・安曇野祭囃子実行委員会

国営アルプスあづみの公園無料入園日のイベントとして地域に残る祭囃子を演奏する会が開かれました。豊科新田の浦安の舞・お囃子、下堀扇町諏訪神社の祭り囃子、三郷上長尾の獅子舞が披露され、訪れた観光客や地域の皆さんの盛んな声援を受けました。

この演奏会は祭りを元気づけるお囃子が地域の事情で継続が困難になり、年々少なくなっていくのを憂えた



「安曇野の自然と文化を考える会」の皆さんが安曇野に祭囃子の音色を残そうと、平成 17 年に第 1 回演奏会を開催してはじまりました。その後、隔年で開催され、6 回目になりました。

前は 7 団体だった演奏団体が今回は 4 団体に減少し、危機感が益々強くなった。一方一旦は途絶えた獅子舞をこの演奏会を契機に復活した上長尾獅子舞保存会の例もあり、継続することが大切だと実行委員長の小野松雄さんは語っていました。

（今泉一）

# くるりん講座

第4回くるりん講座

## 目からウロコ！市民活動のいろは ～皆さんの“ミッション”は何ですか～

10月1日（土）市民活動サポートセンター（くるりん広場）で、第4回くるりん講座が開催されました。長野県NPOセンターの山室秀俊さんから、市民活動団体の中でもNPOに焦点を絞り行政との協働のすすめ方、運営の仕方、法人取得について説明を受けました。

公共的サービスへのニーズが多様化し、行政だけでは対応が難しくなり市民が公共領域で役割を担う「新しい公共」の考え方が紹介されました。また、NPOの「非営利」という意味について「利益を分配しない」、「ボランティアが意思決定する」の2つの面からわかり易い説明がありました。

市民活動・NPOは利益のためではない活動をするもので社会的使命＝ミッションのために働くという観点が必要であり、「社会・地域にある問題・課題」と「あるべき姿・方向」とのギャップを埋める解決策を実行し、社会をより良く変えていくことが使命だとのことでした。

後半はNPOを法人化することに関する解説、長野県NPOセンターが運営している市民協働サポートセンターの紹介がありました。

講座を通して、協働の担い手としてのミッションを常に追求する活動が求められていることを改めて認識しました。

